

明治四十三年 配元一千七百七十年
 本紙 一枚金二錢 二枚金四錢 三枚金六錢 四枚金八錢 五枚金一圓
 定價 三個月前金壹圓 六個月前金壹圓 九個月前金壹圓 十二個月前金壹圓
 月曜日及大祭日の翌日は休刊(日刊)
 廣告 五錢活字十七字一箇一行一圓 十錢活字十七字一箇一行一圓 十錢活字十七字一箇一行一圓 十錢活字十七字一箇一行一圓 十錢活字十七字一箇一行一圓
 發行所 京師西小門區(電話六二二) 京城新報社
 印刷人 松久 仲馬 太
 發行所 京師西小門區(電話六二二) 京城新報社

遠ない獨力天下を制禦し青年血氣の時
代に力一ぱいの働きをなし老後の謀を
なせば食ふに困るとの拉言はなほない筈

極端なる今日主義の觀念に當り轉じて益々情願遊食を貪る弊風を養ふに至りしかば外人宣教師は之が救済の一方去してモシキ主財を行ふたり

入たることを希望する凡ての業務に就
ける人は業務のために斃れて止まざる
人たるを希望する業務に趣味生ずれば

こゝ數百年前迄德國に於ける醫師の地位は極めて高貴なるものにして如何なる風の絶無なるは忠北、全北、慶南、江原の四道なりと

び武田の郎黨多けれど天目山に従ふもの小宮山内膳一人のみ金のために働く人利慾のために働くものは皆武田家末

れ晩近に至りては一種の卑下すべき賤業と目せらるゝの風を作れり然るにこゝ數年前より吾人醫師ノ開業するもの羽目で、電車に乗るやうになつた。そ

するは此の類の人物なり實業界に足を入れんとするもの^{ハナハタ}にてもこの必要からず、

に非ざるを知り愛に再び醫師の地位を
高むるに至れり以上の如くなれば從來
醫學を専攻せんとの希望を有する者極
下げて就つて居る、
自分はヤツとの思



いひます。又王祥と云ふ人は親が鯉が喰べたいと云はれたが、買ひたくも錢はなし、川に漁りに往つたが、何分氷が張つて居て漁ることが出来ない、三日三夜の上に乗て居ると、自分の身体の暖氣で氷が解るや否や、鯉が其中から飛び出したので申し、如何に我々強い人間でも、三日三夜氷の上には乗て居られるものではございせん、孝子の徳に依つて、鯉が氷の中から飛び出したものは、随分支那にも妙な鯉もあればあるものだ、コリヤ拵へ事で日本には其様な拵へたはありません、眞の孝行が澤山ございますから、併し眞さいまして、豫て常盤御前の色香美きことを聞いて居つたものでございすから、何うかして之れを手懐けたと思ひまして、彌兵衛宗清に吩咐け常盤の在家を穿鑿させましたが分りせんので、其母の常習と云ふ者を生つて、本水の掛間に掛けました、夫を聞いて常盤がどうか母上を助けた子供を助けたといふ所から、清盤從つたのは眞操を感つて、眞操を立たと云ふものゝ、さればこそ三人の供の命も助かり、母親の命も助けられたと、眞瓜らしく講演しますすが一旦破つた操の再び立つ道理はござい

然るに又遊ぶこと本位の人にかゝる。是
よこそ本位の人と金のために働く人
とを以て實業界に望まぬなり。單に實業界に
望まぬのみならず、大日本帝國の
國土を耕すべき人、凡ての社會に必要は
ない。はて仕事のために働く人、事業
より外に眼中にない人たらざるべから
ず。樂し事を働くことし眠ることし三つの
調和は食ふて着たことに自體を保持す
べき必要條件である。
食ふに困る人は食はねばならぬ働け！
働け！と云ふ使命を帯ぶる人間一生の
経路は食ふための経過である。然るに食
ふに困らない人は悉くことに背折つ居
る。何か面白ひ事はないかど！尋ね廻つ
てゐる父祖傳来の道義に據り天地を我
が物として遊び廻る人は事業の何物た
るを解せず天地の趣味と知らざる人故
に運産を領めずカチンギも云ふ大名
ほど誇むべきものはないと物狂徒が云
ふたのこの點である。之れ等の人は未
だ世の趣味を解せざる人公等は何故に
帝國の國土を踏んで居るかと思はれなく

めて少數なりしが方今漸々多きを加へたり元來醫藥に關する規定は元武四年内務令醫士規則、藥劑一規則、藥種商及藥品巡視規則などの發布せられたる數れも規則文律にして要をなさず今其一例を擧ぐれば醫師規則中醫士は醫科大學を卒業し衛生局の檢定、試考に及第したる者に限るとの明文あるも過古は勿論現在と雖韓國に醫科大學なるものも存在しなれば目下韓人の開業醫は全國を通じ二千六百五十九人を數よるも嚴密なる意味に於て醫士として有資格者悉無と云ふも輕言に非ず内部には是に反してこの點に着目し一面醫學專攻機關を増設すると共に醫士取締規則を發布する等にて目下それ〴〵精査中なり。因みに日人醫師は二百八十三人外人醫士は十九人にしして人口一萬に對し醫師三人強の割合なりといふ。

●モルヒネ注射惡風

モルヒネ注射の惡風たるは隨處を要せず今韓國に於けるこの惡風の沿革を尋ねるに三十年前千午の癘亂に際し清兵

ひで、江戸川行のへ乘つた。纏て電車は、コトン／＼と云ふ音をさせて、〇〇交又點を越して停頓したる此處にも學校生の男女學生の一團が寒ひそうに立つて居る、十字のレーン

は、怪しい光を放つて居た。十字のレーン……怪しい光……自分

の脇中に閃めいた、ア、裸殺美人!!


自分はまだ牛込の成る學校に通つて居た時分のことだ、その頃、自分は徒々主道場にかゝれて居たので、毎朝、そこから早稲田へ、テク／＼歩をきめこゝで居た。或る日のこと、頭は潮生しの花時、深く雨の降つた翌日のことだつた、その日も試験日だったので、高いた、その間に合ふまいと考へたら、俄に徒歩主義を廢して、兩國から電氣に乗つた、矢つ張り今日の如に、一杯乗つて居たた。

この交又點に近づく、運轉手は銅りと警鐘を敲撃して居たが、急に運轉を中止した、同時に十六號と云ふ

ります。元はなか／＼の財産家、村でも、第一と稱はれた程の家豪でありましたが、頗る不幸の爲りに段々と家産を失ひ、今は見る影もない貧乏三郎に憐れな有様なるので、此の奥助の祖父を與左衛門と申し幼い時、母親に別父を養へてゐた親一人子一人至つて、孝行の著、善の敷へて孝は百行の基と云ふやうな、子として親に盡すのは珍らしい位のこと、孝行しない方が珍らしい位のこと、自分を捨てて呉れさせた親に盡すのでございますから、子の分としては當然のごとき、時には二十四孝など申しますことがございます。勿論アレは物でございませう。阿はう四百餘州廣しと雖も、あんな事は決してありません、中にも孟宗郭巨王祥など云々人の話は随分解せないことがございませう。孟宗と云ふ孝子は親が寒中是非荷を喰ひたいと云ふので、若しやど竹藪に這入つて雪を分けて一生懸命に掘つて居ります。天孝子の一心に感ぜしか、筍が出て來たと云

女は日本には至つて静まいと云ふこと
でございます、日本で貞女の鑑と云ふ
と、私始め常盤御前を講演したもので
ござります、去る物語の方に何つて
見ますと、何うでも常盤御前を貞
女の鑑に上げて講演すると云ふのは直
しくない、却つて墮落の心を喚起する
やうなもので申されましたが、全く
然らぬでございませう、夫左馬頭義朝は
待賢門の軍に敗れて討死を致したので
夫人の常盤御前は家来の爲めに助けら
れ、今若乙若牛若と云ふ三人の子
供を連れて、龍門と云ふ所に隱匿して
居ました、所が敵の情盛は好色家であ
る人は幾らか異れる、所が一人の女

ませぬ、此して常盤は清愛の意に随
ひて女子を一人設けたのみが、其の儘清
愛が死にましたから、さる人の
方になりまして、又女子を一人設け
した、諸方へ嫁して子許す掛へた所
見ると、別段貞女と云ふ所は些つと
ないやうに思れます、唐にはありま
す、亭主が死で七日目乞巧と云ふ
亭主が居て往來の人に絶つて乞女
に居て、手前へ戴かして下さいまし
、斯ういふ身装になりました、何うぞ
御助けを願ひますア、可哀想にと
ある人は幾らか異れる、所が一人の女



御料理席貸
和樂園高田家
(電話九三七番) 米倉町
○料理は萬事御手輕にして高田
○園内は至極閑靜にして別世界
○土地高燥にして見晴し京畿一
○大廣間の設備も有之候間樂會
又は宴會等に適當に候

(電話一八二番)

志ちや

分の御便利と圖り迅速御
應ず質物は町事に取扱
極めて安全に一定の場所
保管す

京城曙町

大規商行質部

流質品と雖も場所の許す限
り可成長期間大切に留保し
萬遺漏なきを期す

承知相成度此段廣
告仕候也
京城明治町三丁目
日興印刷株式會社
明治四十三年
一月廿一日
明石桐一

拙者從來使用來り
圓形實印一月二
十一日遺失候に付
後押捺の分は總
爾無効のものとし
て御

せんから 貴方に勝れた所を切りま
 たのでございます 實に大した眞女
 日本には其様な眞女は無いやうで
 います 随分中には公主が重い病に
 も懸ると、もう候補者の三人も辨へ
 置くご云ふやうな怪からんものもご
 います、餘事に渡つて恐れ入ります

廣 告

から、小刀を執り出して、手首をブツブツ切つて仕舞つた。其の唐人は、死體で唐人「どうしたれ前は氣でも違つたか」女乞「イ、エ氣は違ひませぬ、手」の亭主が「死に」まして、まだ七日し経過させぬのに、男が手に觸れては「なられた夫には一言の言辭もこきいへな

人「ア、美しい女だ……姐さん囃れ困
だらう……鏡を上げやろ」女「エ、
難う存じますと、手を出す好色の唐
其の手を睨り握つて三蔵達りました、

前記の各項調査を遂け其正確なるを保證候也

株式會社
長崎貯蓄銀行
會頭 松田庄三郎
副頭 松田寛二
取締役 永見英三
支配人 野口孝太郎
監査役 高見和平
同 肥塚與八郎

當期利拂込	六三、七六三、三一九
諸君費損金	四七、五三〇、四四三
差引純益金	五〇、〇〇〇、〇〇〇
積立金	五〇、〇〇〇、〇〇〇
配當金	一割一株に付一圓五十銭
後期繰越金	三七、五三〇、四四三
合計	四七、五三〇、四四三
右の通帳也	

明治四十三年一月
 大崎町南町一丁目三番一號

[illegible][illegible]

金二百	十三萬四千四百八十圓六十五錢	前期繰越金
金三百五十三萬四千五百二		前期繰越金
三銀九厘		前期預り金
合計金五百八十六萬九千九百八十八圓八分		
金三百五十三萬七千七百五十三圓三十八分		
差引金二百三十六萬二千二百五十八圓五十二分二厘		
合計金五百八十六萬九千九百八十八圓八分		

電話一四一四番

御待合

新築
開業

京城永樂町三
丁目永樂湯前

松月

電話一三四五番

明治四十二年下半年第三十三期
決算報告

旭町壹丁目五四
 齋藤英壽
 德島縣人會
 追て御授成の御方は本月廿七日迄
 寄請へ御申込相成度候

廣 告

一時日 一月廿九日正午後三時
一會場 旭町三丁目閑遊亭
一會費 金二圓當日御持參の事

德島縣人會春季大會を兼ねた
年宴會開催期間卸出席相成

▲生か死か判決近
李完用氏の兇行犯人たる李在明は日
本京城監獄に在り其の他の被疑者二十
名は警廳前に拘禁中にて着々調査
を進め居る由なるが既に大体の調
査了したるに依り来月上旬には推
察はす筈にて今殆ど犯人に適用すべ
きの刑法大全を見るに罰法四百七

下手又は助手したる者は併せて絞
し隨行のみにて下手又は助力せし
無き者は一鞭を減りたりて主犯
どもに同一罪なり而して此犯罪は
に確るを以て其の條項を見るに同
十六條を犯さんとて陰謀し已
十六條を犯し又は其の事を行ひし
の謀者又は奸細に因りて未だ罪を
に及ばざりしものと未遂犯と謂ふ
定、謀の犯罪も所犯せる上に同
十七條にて未遂犯は既遂犯の律に
乃至三等を減することを得たり
遂犯の減等は除外例たることを示
依て案するに兇行の本人は固より
連累者も多くは按に處せらるべき
の精神なりと解釋せらるべしと

2

松本

鍾乙

岩嶺の東方約一里餘川所下西面橋市
東部同株式會社商務理事及救世醫院に
屬約二十名拳銃等と携へて闖入し倅
連等、都警清の二名を要害し番四名に
經傷を負せ金百圓十七錢五厘外反物四
點價二個價格八十一圓を返却されは
ば懇願に接したる駐在の警邏番兩名は
現場に馳付たるに賊は頑強に抵抗し
警邏番は負傷し日巡査は多數村民の援
助を受け二名を殺したるに一部は新
縣州方面に一部は立岩洞方面より明緑
江を渡り清洲土内に逃走せしが殺れ
る二名は常盤より六邊數の拳銃を所
持し居れりといふ

●賊魁延尙橫行す
▲山中に亂り行ふと懼ます
去る廿一日安城往在所今井巡査は西面
沿河に至りしに夥しく賊徒聞ゆるより
居も千秒表を手にし居る二人一は槍に
云ふ「昨日別れなつた某女は二人一槍に
福圓二圓の歌舞伎座見物と出體た迄は
可いが奉水一派の樂方を勤める居る廣
三郎の幸主は此の頃再三外出する女房
の素振りが氣にかつて堪らざる其の夜
は歌舞伎座行きと云ふと聞いたを手掛
りに路邊つりかけて入鑪し何處なる土
間と可愛の娘の襟に見通す阿ふの平士間に
可也女房は見も知らぬ一人の男と肩
を比べて見物し居るに女ならは癪でも
起す處けれど氣の少しい樂方式けに早
鐘を撞く胸を押へて立歸つたが其の夜
からは必し上らぬ病人と云ふ始末に友
達共も氣の毒に思ひ出されと數めたに
新く一座同京城は彼れを引つた上
斯くと聞いた後本は直機電話口に駆け
寄つて「ア一京城座ですか廣三郎は發
ちましたか、最う發つたとは一ん往く
認められ行旅病者として收容さる

●行旅病者收容
大阪市南區
町筋三丁目當時南山町三丁目の玉多
五郎と云ふ男は去る四十年中渡御當
に勞働に従事し居たる者なるが去
る十八日頃より肺炎に罹りし爲め當時
屋主なる坂義三郎より横間病院に入
せしめ居しも到底短時日に於て全快
家なく且又義三郎より夫れ程の金餘
なきより一昨日本署へ右救護方願ひ
しに就き取調の結果事實相違なき者
認められ行旅病者として收容さる

▲昨午五月五日に産れた僕の娘が肺炎に罹つて漢城病院に入院してゐるので妻も閉き添ひひして同病院に留置されてゐる病院に留置されてゐる云ふものも少々可笑しいが自己の意志よりでなく據りなく留置せざるを得ざる可くして居るのだから拘留や留置と異なる所はない、だから斯う云ふのである

▲イヌは人はパンのみにて活くるものに非ずと云はれたがさりとてパンなくして活くる鯉はざる拙者は勢ひ自ら炊爨に従事してゐるはならぬので日々南大門市場に行くべく餘儀なくせられて居る。云はば要制執行されて居る▲廿六日の朝の事である水産市場の前に立つた、例の如く危険千萬なる聲を振り立てゝ居る身振も氣振りも感心して見て居ると鯉雲に駭へてゐる魚を見て

と云ふには及ばんやないか(小僧)▲南大門通りに立つて小學校通ひの男女學生を見較べて彼の人と此の人が夫婦になつたらなすを語らんことを考へて見たが何んにもなるまいナア(紅雲無論小僧)

吉 凶

本町五丁目 三一節判

一月廿七日月齡十二の十六先負八千二百辰▲一白 遺失盗客中傷の難かり新事見合の車向旅行妓女の手車騒因△一事長上者より無理を以て抑する△一事ある人保證世話事を禁ず△三雲 廿付辰異事を報するあり旅行凶詐術偵察防べし△四縁 陰謀の日なり物事疎薄察不通に終らん婚姻養子の手事吉△五黄 平靜の日なり但し業務官場上に先念疎漏ある勿れ△六白 盛運の日なり

若くは、矢張り一二年向井南太郎の如く、
若く仲間の次へて、向井南太郎の如く、
中村中村三郎、役柄の次へて、新選組
あつた。中村中村三郎、役柄の新選組、安部
宗村中村三郎、下田即条、松本健之助
（中村中村三郎、矢張り殿内、松本健之助
市川小文治、紅弓助、青山博雄、片岡
雪久次）石壁に上る後、女房居へん。
妹綾江、實川豊君、松山越之進、村田
豊後之介、父鐘佐、風壽太郎、門弟源
氏、以下二つ、酒井主水、中村昇君等。

▲舞座、同座本時の趣意は、天下知知
「探揚」十段目迄にして切、「跪姿、女
森阿江、酒盛の段の由にて其の役柄は、
花嫁入、重宝光、鹿島、女房居（坂東
大之助）、養儀市川猿蓑、初め久吉、嵐
山之助、酒屋の母、嵐武之助、初吉、嵐
金之助、八藏丈、酒盛平七、（市川團
孝）連勝時、力丸、市川鯉升、珠栞（片
岡小嬢）、森友九、三郎屋上梅枝（長尾
瀬太郎）、早月、好運手兵衛（片岡鶴子）
小田泰兵、市川道彦、芝賀智光、父宗
岸（嵐獅十郎）

は何をするにも規則がある▲ト、やゝ
らうに云へやりましたが、観望藤達の
馬丁はん云ふのは、いはら六かいも

青酒

んやれまへんか▲夫れから大はんぢや
ない○本はん一つあるまつぜ序で
だによつて妻、思ひ切つて云ひますわ
あんたはん少いぞ、でも酒でも飲みや
ると士足のみさど何所へでも上りやは
るが馬丁をしやるさかひぬ性の、
つつたのやれまへんか其の癖を直して
わけますさかい出やす（支那蜀翁）▲

[illegible]

-79-

